

政務調査活動 報告書

日時 平成20年1月18日から19日

場所 京都市内 視察者 黒川 勝

内容 小学校の統廃合によって、廃校となった小学校の跡地を活用した
京都国際マンガミュージアム・京都芸術センターの視察

詳細 18日夜、京都到着・宿泊

19日10時 京都国際マンガミュージアム視察

現地対応者

京都市教育委員会生涯学習部 京都国際マンガミュージアム

担当係長 白波瀬 克則さん

13時 昼食

14時 京都芸術センター視察

現地対応者

京都市文化市民局文化芸術都市推進室

文化芸術企画課担当課長

(財)京都市芸術文化協会 事務局長 石田 洋也さん

17時 京都出発

所感 京都国際マンガミュージアム

明治2年に開校した龍池小学校は、京都の町の区分を基にした64の番組小学校のひとつ。教育に熱心な学区内の町民の寄付2000両で建設された。そのような歴史的経緯から近隣の5つの小学校が生徒不足で廃校になり、統合され、跡地利用をするには近隣の地域の人たちの合意を得ることは不可欠であった。当時の文化庁長官を初め多くの人々の熱意ある説得で地域の人々に理解をいただき、2006年11月に開館となった。

地域の人々のための集会的な機能は残し、龍池小学校の歴史を物語るスペースも充分にとり、地域社会のシンボルとして、夏祭りや地域の運動会に利用され、今も愛されている。

土地と元の建物は京都市が提供し、改築に8億円、備品に4億円をかけたが、京都市は約1億円、文部科学省の大学の地域貢献にたいする補助金から4億、残りは京都精華大学が負担。京都精華大学マンガ学部の研究施設として市民にも開放しているという位置づけ。京都府の実質の負担は1億円となっている。

利用者は年間23万人。老若男女に親しまれている。大人が78%中高生が7%小学生が15%。年間パスも300枚売れている。全体の15%は外国人観光客。海外のガイドブックやインターネットでは有名らしい。

今年の9月には日本では横浜開催に続いて2回目となる国際マンガサミットが京都で開催される。廃校後の地域との交流、大学との連携による行政負担の軽減などとても参考になった。

京都芸術センター

マンガミュージアムと同様に地域の町民の寄付で明治時代に建設された歴史的な近代建築物である明倫小学校を改築して平成12年4月に開館。平成7年より文化芸術のイベントを開催し、地域のコンセンサスを得る。

現在は芸術文化活動センター、芸術文化情報センター、芸術文化交流センターの3つの機能を持って財団法人京都市芸術文化協会が指定管理団体として管理運営。評議会には地元町内の役員にもなってもらい、地域との理解・協力を得ている。祇園祭の山鉦の展示や校庭の地域への開放など地域との交流は盛んに行っている。演劇、現代美術、自由な発想での茶会、音楽界などジャンルは多彩。交流事業は、国内外の芸術家に3ヶ月制作の場を提供し作品発表をしてもらう。製作中にワークショップを開催し、市民に対する芸術理解を深めてもらっている。

地域との交流、文芸術を捉える3つの機能などの展開は勉強になった。

京都国際マンガミュージアム



外観は2つの校舎・講堂をガラスのファザードで連結しており、校庭は地域の人の寄付による人工芝(1000万円)が敷き詰められている。隣接するビルは校庭に日照があるようにと一部3階建てに制限されている。



地下収蔵庫には15万冊のマンガが収蔵されている。鳥獣戯画や北斎漫画に始まる日本のマンガの歴史も展示されている。右の写真は開港時の横浜で発刊されたジャパンパンチ。



講堂は研修室、校長室は来賓室、給食室はこどもの部屋に活用。和室は文化財的な価値があるもの。有名な漫画家200人による舞妓さんのポートレートが飾られている。廊下にびっしり並んだ漫画は自由に手にとって閲覧できる。



旧龍池小学校の歴代校長や昔の学校の様子など地域の歴史を大切にしている。廊下は小学校らしく昔のままに中央に線が引いてある。





紙芝居を見せるアトラクション。



未来のパソコン漫画。



古い漫画も画面映像でページをめくって読める。



講堂は企画展が出来るような大空間として活用。



講堂前の大きな空間の下では漫画教室。



国際ミュージアムなので韓国・中国・英語・フランス語・スペイン語で資料も作成。

台湾漫画の企画展では、日本の雑誌にそっくりな台湾の雑誌を発見。



学生達が似顔絵を描いてくれます。



漫画制作の実演中。



入り口付近。売店も充実。



カフェの壁には有名漫画家の作品。



おみやげはウナギイヌ。

京都芸術センター



いたるところに旧明倫小学校の名残りがある。



昔の教室を再現した部屋と昔の写真や資料の陳列ケース。



講堂でダンスの公開練習中。



現代美術の作品は大広間に展示。



タバコ部屋の壁も作品です。



京都の芸術文化情報の拠点としての機能。





カフェも充実。繁盛してます。



展示ギャラリーは南と北の大きな教室で。



会議室も近代建築の面影が。



校庭では近所の方がテニスに一汗かいてます。



エレベーターは後からつけました。



外観は南欧のホテルのようです。



やっぱり小学校なら二宮金二郎です。

政務調査費支出

交通費	金沢文庫- 上大岡- 新横浜	往復	1,020円
	新横浜- 京都	往復	25,780円
	タクシー移動代	京都市内 (京都駅- ホテル- マンガミュージアム- 昼食- 芸術センター)	4,270円
宿泊費			15,800円
合計			<hr/> 46,870円